逃走中　～残虐な暴走族を止めろ～

ブルー・ハイパー

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

今回はスーパーペーパーマリオの世界で逃走中!!

１２人＋αの逃走者達は5体のハンターから逃げきることができるのか!?

勝利のカギは『次元ワザ』と『ピュアハート』にあり!?

更にこの世界だから実現できる新要素もてんこ盛り!!

１２人＋αの逃走劇をご覧あれ!!

※スーパーペーパーマリオのネタバレがありますのでご注意ください。

目次

プロローグ・逃走者紹介
01　集められる12人の逃走者
1
02　逃走者紹介 ―――― 4
03　逃走エリア紹介 ―――― 10
04　アイテム紹介 ―――― 16
ミッション1　～動き出そうとしている悪～
第1話　オープニングゲーム ―― 20
第2話　ミッション①―1　次元ワザを習得せよ ―――― 28
第3話　ミッション①―2　迫りくる時間 ―――― 39
第4話　ミッション①―3　終了まであと2分 ―――― 44
第5話　ミッション②―1　倒れた女性 ―――― 52

プロローグ・逃走者紹介

01　集められる12人の逃走者

「おっ、いいことを思いついたぞ。」
「どうした？　右手。」
　何やらとある場所で会話をしているマスターハンドとクレイジーハンドだが…、
「今回はスーパーペーパーマリオの世界を舞台とした逃走中を企画したい。」
「だから？　何をしろと。」
「…いや、特に何も。」
「おい…。」
　場所変わってここはスマブラ合宿所。マスターハンド達が作った合宿所でそこにスマブラメンバーが住んでいるのだ。
「今日は暇ですね。マリオさん、カービィさん。」
　ヨッシー達がいるのは合宿所の近くにある野原。
　マリオやカービィ、ルイージ、クッパもここで昼寝していたようだ。
「そうだな。…だったら今日は新しいゲームでも買うか？　それで皆で遊ぶ

ぞー！」
「うぉー!!　退屈で限界だったのだ!!　なら早く買いに行くぞ!!」
張り切っているクッパとカービィ。
するとこのタイミングで…、
「これより逃走中に出たい方を募集する。時間は今から１５分。出たい方は合宿所へ急ぐように。」
いきなりクレイジーハンドからの放送が流れた。
「逃走中ですか…。どうします？　皆さん。」
「ボクは出るよー!!」
「勿論、ワガハイも出るのだ!!」
２人はそれだけ言うと合宿所めがけて大急ぎで走って行った…。
「じゃ、ボクも参加します!!　今回の逃走中も活躍して見せますよー!!」
「やれやれ…。じゃ僕も参加するぞー!!」
「待ってよー!!　兄さーん!!」
こうしてマリオ達は大急ぎで合宿所へ戻り、見事参加できたのであった。
「今回は１２人集まったか…。じゃ、今から逃走中の舞台となる場所へ行くぞ!!」

そしてワープされた場所はと言うと…、
「ここって…、ハザマタウンじゃないか!?」
「そうだ。今回はスーパーペーパーマリオを舞台とした逃走中を行う。そして体をよく見てみろ。」
「ん!?　…あーっ!!　ボクの体がペラペラに!!」
「ペーパー世界だからな。体もペラペラでないと世界が成り立たない。」
「でもこれはこれで斬新な感じだよね。兄さん。」
「確かに…。」
「何でも右手の話によると今回は今までの逃走中とは一味も二味も三味も違うらしい。最も、俺は意味が分かんないだけどな。」
マリオ達が会話している内に…、
「あと２０分あたりで逃走中を開始する。こちらもいろいろ準備があるのでもう少し待ってもらいたい。」
ここでマスターハンドの放送が。
果たして今回の逃走中と何が違うのか!?

０２　逃走者紹介

エントリーNo.０１　マリオ

・任天堂の顔と言ってもいい存在で多くの人達から信頼されている。
・優しい性格で困っている人を見ては放ってはおけないタイプ。
・最近はクッパとも若干だが友好関係を築くようになったらしい。
・ミッションには積極的に参加する。
・賞金はプロローグで言っていた新ゲームを買い、皆とプレイするようだ。

エントリーNo.０２　ルイージ

・『永遠の二番手』や『日陰者』等いろいろ言われているが、その汚名を返上する為、この逃走中に参加したらしい。
・兄であるマリオ同様、優しい性格で困った人を放ってはおけない。
・ただ頑張り過ぎて空回りすることも…。
・亜空の使者の時もあってか、デデデとは何故かウマが合うらしい。
・また機械に得意でハッキングやパソコンの超早打ちも得意だという噂が!?

エントリーNo.０３　クッパ

・クッパ軍団の首領で大番長的な存在だが、性格は意外と丸い。
・ピーチにアピールする為か、ミッションにはかなり積極的だが、それが裏目に出なければいいところなのだが…。
・体格のせいか、スピードはかなり遅めなので逃げることより隠れることを考えたほうがいいだろう。
・賞金は今見ているアニメのブルーレイをまとめ買いするのに使うとか。

エントリーNo.０４　ピーチ

・キノコ王国のお姫様でマリオ並に信頼されている。
・またクッパには異様に好かれており、最初は無視することも多かったが、最近はクッパが悪いことを起こさなくなったのか少なくとも嫌いではなくなった。
・料理の腕は凄いが、たまに失敗料理を作ってしまうことがある。
・賞金の使い道は秘密らしい。

エントリーNo.０５　ヨッシー

・ヨースター島に住む恐竜で『ヨッシー』というのは一族の総称とのこと。
・足が逃走者の２番目に速く、ミッションにも積極的。
・しかし食べ物に目が無い為、釣られてしまうこともある。
・賞金自体にはあまり興味が無いみたいだが、食べ物には目が無い為、逃走成功を狙っているようだ。（賞金でたくさん食べ物が食べられる為）
・言うまでもなく賞金は食べ物に使う。

エントリー№０６　ワリオ
・ニンニクと金には目が無く、ミッションも金関係以外のミッションは行かない。
・足の速さも遅めで逃げると言うよりは隠れてやり過ごすのが無難だと思われる。
・勿論狙うのは逃走成功だのこと。
・運がいいのかハンターに見つかっても何故か逃げきれるらしい。その原因は今の時点では不明。
・賞金は新しいバイク、新型テレビ、ニンニク等いろんなことに使うようだ。

エントリー№０７　ドンキーコング
・ＤＫのネクタイを常に付けており、同じネクタイを１３個持っているらしい。

・言葉が喋れないので大抵はヨッシーかマリオが通訳する。
・異様なバナナ好きでたまに『この世界をバナナ色にしてやる』等意味不明なことを言う。
・巨体なのでワリオやクッパ同様、隠れてやり過ごす方が無難だと思われる。
・ヨッシー同様、賞金は言うまでもなくバナナに使うのは間違いない。

エントリーNo.０８　カービィ
・ヨッシー同様、非常に食いしん坊だが今回は逃走中自体を楽しむ為にエントリーしたとのこと。（ちなみに本人は賞金をよく理解していないらしい。）
・頼まれたことは進んでやるタイプで一度決めると意思を曲げない強い精神力を持っている。
・しかし、ミッションには危険を感じるのか自分からはほとんど参加しないようだ。
・長い間動かないでいると寝てしまうことがある為、かなり注意が必要だと思われる。

エントリーNo.０９　デデデ
・自称プププランドの王でカービィを常に一方的にライバル視している。
・巨体だが意外と身軽で反射神経には結構優れている。しかし、スピードが問題であ

る

ことに変わりは無いので油断は禁物と思われる。

・ミッションもマリオ程ではないが、積極的。

・賞金の使い道は本人もまだ考え中。

・ちなみに逃走中の裏を探るのが得意だそうな…。

エントリーNo.１０　メタナイト

・ププブランドの騎士で剣の腕前も超一流！

・ただ、カービィにいじられているのが気に食わないらしい。

・ミッションはその時の状況に合わせて行くかどうかを決めるとのこと。

・賞金の使い道は不明。（本人曰く教えられない。）ただ、戦艦ハルバードを所持しているのでそれの改造や修理に使うという可能性もある。

エントリーNo.１１　スネーク

・スマブラでゲスト参戦したメンバーの一人で偵察活動を数多く経験している為か今回は

自信満々らしい。

・ミッションにも積極的で逃走成功候補者の一人。
・ダンボールに隠れるのが得意なのだが、ハンターには無意味なのでダンボールに隠れて
捕まるという皮肉な話にならないようにしたいところ…。
・賞金は新しいランチャーを買うのに使うだとか。

エントリーNo.１２　ソニック
・スネーク同様、ゲスト参戦したメンバーで世界最速の名に恥じないとんでもないスピー
ドでフィールドを駆け巡る。
・逃げているうちに行き止まりになりがちだが、今回は行き止まりは結構少ないのでそんな
ことにはまずならないだろう。
・自由を誰より好んでおり、大抵は気ままにやり過ごすが、ミッションの誘いが来るとすぐ
ミッションに向かう等、協力性はあるようだ。

０３　逃走エリア紹介

ラインラインロード…・ステージ1に登場するステージ。

・ここにア・ゲールが住んでおり、そこで次元ワザを習得できる。

・基本的に複雑な造りではない為、ハンターから逃げきるには無理があるエリアでもある。

コダーイいせき…・ラインラインロードのどこかにあるワープゲートを潜ると来ることができる。

・ラインラインロードとは違い、結構複雑な造りだが、自分の場所を見失わないように。

・ここにピュアハートの守り神ズンババがいる。※

※本来、ズンババは倒されているがゲームを成り立たせるため、復活している者もい

る。

サンデールの屋敷・・・ステージ2に登場するステージ。

・コダーイいせき同様、複雑な造りではあるがバンケンがうろついて

おり、触れると屋敷の外につまみ出される。

・サンデールが住んでおり、強力なまじないをかけてもらえる。

カクカク平原・・・ステージ3に登場するステージ。

・背景や草等全てがドットでできている変わったステージ。

・唯一、アイテムが道端に落ちている事があるエリアで戦力を増やすなら

ここでアイテムを探すのも1つの方法。

カメレゴン城・・・カクカク平原の奥にあるカメレゴンの城。

・他のエリアと比べて比較的狭い。

・カメレゴンが住んでおり、ある条件を満たすと『とってもスゴイ物』を

プレゼントしてくれる。

大宇宙…・ステージ４の舞台となる宇宙。

・そこでは息ができない為、通常入ることはできない。

ストンストン村…・ステージ５に登場するステージ。

・ロック人が住んでいる村で建物などが全て石でできている。

・逃走中においてかなり役に立つ情報を教えてくれる者がいるらしい!?

ハナーンの洞窟…・ストンストン村のある場所にあるワープゲートを潜ると来ることができる。

・ハナーン達が住んでおり、結構複雑な造りになっている。

・奥にはキング・ハナーンがおり、ある条件を満たすと一回だけハンターを一体停止させることができる。

モノノフ王国・・・ステージ６の舞台となる国。

・モノノフ王が国を纏めており、１００人の部下が日々修行をしている。

・ある条件を満たすと無条件で逃走成功と見なされる。

アンダーランド・・・ステージ７に登場するステージ。

・アンダーランドは死んだ人の魂が来る場所で犯した罪が軽ければここことは正反対のスカイランドへ行くことができる。いわゆるここは地獄。

・アンダーランドを治める女王『ジャーデス』がおり、ある条件を満たすと制限時間のあるアイテムの効力時間を２倍にしてくれる。

スカイランド・・・死者の楽園とも呼ばれており、アンダーランドとは真逆の世界。いわゆるここは天国。

・アンダーランドのどこかにあるワープゲートを潜ると来ることができる。

・スカイランドの長『グランエル』がおり、ある条件を満たすとジャ

ーデスのある条件を満たす必要がなくなる。

・アンダーランドにも言えることだが、本当の所、何度も来る場所ではない。

ハザマタウン…・マリオ達が最初に来たエリアでマスターハンド達がここでミッションを出したりとゲームの管理をしている。

・ここにハンターが来ることは無いが、合計２５分ハザマタウンにいると強制失格となり、残り２５分になるとハザマタウンにもハンターが１体出現する。（但し、残り２５分になると２５分以上ハザマタウンにいると強制失格となるルールは無効になる。）

・ある場所には遊技場などがある。遊技場に入っている間は強制失格の時間にはカウントされないが中に入れる制限時間はある。

遊技場…・ハザマタウンのどこかにあり、ある条件を満たすとミニゲームで遊べるようになる。

・ミニゲームで高得点を出せば出すほど『ハザマネー』をゲットでき、ハザマネーはアイテムと交換することができる。

・ちなみに利用できるのは1人4回までである。

・エリアのどこかにある『ゴールドカード』を使うとミニゲームが一つ増える。

０４　アイテム紹介

～ハンター関連アイテム～

無敵サングラス…かけると2分間ハンターから仲間と認識され、確保されなくなる。
・残り時間４分になると使えなくなる。

冷凍銃…ハンターに向けて冷気をかけるとそのハンターは停止する。
・大きいタンクがあるので結構重い。その為扱いにくい。

冷凍拳銃…冷凍銃を拳銃化されたアイテム。軽い為、冷凍銃よりかなり扱いやすい。
・ハンターに撃つとそのハンターは停止する。

網…ハンターに向けて投げるとそのハンターは一時的に身動きを取れなくする。
・しばらくすると再び追ってくるので動いていないうちにハンターの視界から消えたい
ところ。

～ドリンク系アイテム～

ドリンク…・飲むと体力が回復する。

透明ドリンク…・飲むと逃走者からもハンターからも見えなくなる不思議なドリンク。

・ちなみに逃走者とハンター以外の者には普通に見える。

・しかし５分経つと元の状態に戻る上、残り時間１０分になると使えなくなる。

～特殊系アイテム～

モドルドカン…・逃走者全員に最初に渡されるアイテム。

・使うとどこからでもハザマタワーに戻ることができる。

・ただし電波の届かない場所では使えない上、一方通行なのでハザマタワーに

戻ってまた使った場所へ戻ることはできない。

ゴールドカード…・エリアのどこかにある金色のカード。
・遊技場で店員に見せると新しいミニゲームで遊ぶことができる。
・ちなみにどんなにカードを持っていても増えるミニゲームは１つだけ。

復活のお札…・ハザマタウンにいるマスターハンドに話しかけるとお札１枚につき、確保者を１人復活させられるアイテム。
・銅色のお札が一般的だが銀のお札なら２人、金のお札なら３人復活できる。

～通貨系アイテム～

ハザマネー…・遊技場のミニゲームで得点を出すとその得点に応じて貰える通貨。
・ミニゲームで遊ぶのにもハザマネーが必要でハザマネーは３コインで１ハザマネーもらえる。
・たまったハザマネーはアイテムと交換できる。

コイン…・逃走者全員には最初に３０コインずつ渡される。
・ミッションやハザマネー交換などいろんな場面で使われる通貨。
・コインが一般的な通貨だが、ハザマネーは変わった通貨である。

ミッション１　～動き出そうとしている悪～
第１話　オープニングゲーム

前回、クレイジーハンドによってハザマタウンへ飛ばされた１２人。
現在準備中なのだが、あと２０分くらいには始められるようだ…。
「逃走中はまだかな～♪」
一刻も早く始まってほしいと思っているカービィ。
カービィだけでなくほとんどの逃走者がワクワクしている様子。
「あれ？　ここどこなの!?」
「何でいきなりこんなところに…。」
「ん？　誰なんですか？　あの３人。」
「知らないよ。兄さんの知り合いじゃない？」
「僕だって知らないぞ。」
突然、３人がワープされてきたかのように現れた。
そこにマスターハンドが現れ…、
「準備が思ったより早くできたから今から始めるぞ。　…って誰なんだ？　この３人

は。」
「それがボク達にも分からないんですよ。」
「…だったらこの3人にも逃走中に参加してもらうというのはどうだ?」
突然、2人の会話を割り込むかのようにメタナイトが案を出した。
「う～ん…。それもいいだろう。ちょうどメンバーが足りなかったからな。」
「だったら今すぐ僕が3人に説明するよ。」
ルイージはすぐさま、3人に事情を説明する。
「つまり…、お前達のやっているゲームに参加すればいいんだな?」
「そういうこと。」
「何か楽しそう!!　私やる!!」
「どうせ待っててもヒマだから俺もやるぞ!!」
「よし、決まりだな。では、逃走中を始める前に自己紹介をお願いしたい。」
「私はｓａｙａです。頑張ります!!」
「俺は瑞田高光だ。よろしくな。」
「俺は総銀。ぜひともよろしく。」
「それじゃ、逃走者の諸君には地図や携帯電話、マップにアイテムの説明書。そして
ハザマドカンと30コインを渡しておこう。コインはいろんな場面で使うから大切

に

とっておくように。」

「まずはオープニングゲームだ!!」

すると目の前には5体のハンターボックスと１６本の鎖が出現…。

これから逃走者は1人ずつ鎖を引いていき、見事に外れなければ2分間の猶予が与えられる…。

…しかし、外れを引けばハンターが放出。引いたものはほぼ確実に確保されるだろう。

「1人目は…、スネーク。」

「いきなりか…。だがこれはかなり有利だ。」

尚、順番は2人がくじ引きで事前に決めている。

そしてかなり有利な状況に立っているスネークは果たして!?

ガチャ!!　　シーン…。

「ここで外れることは滅多に無いだろう…。」

セーフだ…。スネークはそのままハザマタウンを後にし、ハザマタワーへ向かった…。

「次は…、カービィだ。」
「ボ、ボクか…。よし、外れは引かないよ!!」
カービィもまた有利な状況に立っている…。
果たして、セーフなのか!? ハンター放出なのか!?

ガチャ!! シーン…。
「よし!!」
カービィは思わずガッツポーズを取るが…、
ウィーン…。
ガッツポーズと同時にハンターボックスも2m前進…。
これはどういうことなのか!?
「しかし、ドクロが入っていた! 残念だが、ハンターボックス前進だ。」
「しまったーー!!」
「大丈夫ですよ。こんなウッカリ誰にだってあることです。気にしたら負けですよ。」
心にガーンときたカービィだがヨッシーはそんなこと全然気にしてない様だ…。
「次は…、総銀だ。」
「俺か…。」

ガチャ!!　　シーン…。
総銀は呼ばれた途端、鎖を引いた。
セーフで良かったのだが、引くタイミングがあまりにも早かったせいで全員ヒヤヒヤして
いた様だ…。
「この野郎…。ヒヤヒヤさせんじゃねーよ!!」
ワリオが総銀にブーイングを言ったが…、その時は既にワリオの視界には居なかった…。
「次はワリオだ。」
「おっ、俺様か…。じゃ、これを引いてやる。」
ワリオが力強く鎖を引いた…。
果たしてセーフなのか!?　ハンター放出なのか!?

ガチャ!!　　シーン…。
セーフだ。しかし、ドクロがあったのでハンターボックス２ｍ前進。
これで逃走者とハンターとの距離は１０ｍに…。

「これで捕まる確率が更に広がってしまったのだ!!」
「次はマリオだ。」
「よし、これ以上ドクロは引かないぞ!!」
自信満々のマリオ…。
果たして宣言通り、ドクロと外れを引かずにクリアできるか!?

ガチャ!!　　シーン…。
セーフだ…。しかもドクロは付いていない。
「よし!!　やったぞー!!」
「くそ、一本取られたか…。だが逃走中ではワガハイが活躍してやるのだ。」
「次は…、ヨッシーだ。」
「よ、よし…。マリオさんが引いたんだ。ボクだってドクロ無しを引いてやる!　えい!!」
マリオに続き、ヨッシーもドクロを引かずにクリアできるのか!?　果たして…!?

ガチャ!!　プシュー!!
ハンター放出　ゲーム開始。

「えー!!　ドクロどころか外れ引いてしまいましたー!!」
ハンターの狙いは勿論ヨッシー。５体のハンターがヨッシーめがけて追いかける…。
「ここでくたばるボクじゃありません!!　フルパワー!!」
「…!!」
だがヨッシーも負けじと猛スピードで振り切る…。
あの走りはある意味ソニックより凄いと思われる。
「ヨッシー!!　ヨッシー!!!　ヨッシー!!!!」
その速さはあまりにも驚異的なスピードだ。
数秒辺りで何とかハンターからの視界から消えたヨッシーだが…。
「ハァ…。ハァ…。ハァ…。いきなりこんなに体力を使うなんて…。ちょっと涼しい所で
休みましょう。」
スピードはもの凄いが体力は大幅に消耗したヨッシー…。
序盤からピンチであることは、間違いない…。

「確保情報が出ないわね…。ひょっとしてヨッシー逃げ切ったのかしら?」
一方、ここはラインラインロード。エリアはハザマタワーにある７つの扉から入るこ

とが
できる。
そしてここにはピーチがいる。

「サンデールの屋敷の前に来たか…。サンデールとかいるのか?」
マリオもサンデールの館の前に来ている。相変わらず屋敷の前では静かすぎる風が吹いて
いる…。
「ここに自首電話もあるのか…。ここにあることを覚えておいて損は無いはずだ。」
尚、自首電話を使って申告すればゲームからリタイアできる…。
ただし、ハンターに捕まれば賞金は…0!!

それが…、

ｒｕｎ　ｆｏｒ　ｍｏｎｅｙ　逃走中

第２話　ミッション①―１　次元ワザを習得せよ

「ウホッ!!　ウホーッ!!!」（すげぇ!!　どんどん賞金が増えてるぜ!!）
「あの額は魅力的かもしれないが…、欲に流されては元も子も無いからな…。」
「すごいのだ!!　新しいクッパ城とか建設できそうなのだ!!」
どんどん上がっていく賞金に皆は大興奮。
賞金単価は現在１秒３００円。そして制限時間は９０分。
逃げきれば１６２万円を獲得できる。
ピリリリリ!!　ピリリリリ!!
「うぉ!!　こんなに静かな場所で鳴ったらかなり目立つな。この音…。」
逃走者全員にメールだ…。そしてマリオは目立っては元も子もないと考え、ラインラインロード
へ身を移す…。

ミッション①　～ハンターボックスを封印せよ～
ストンストン村とアンダーランド、モノノフ王国にハンターボックスが１つずつ置か

れた。
このままでは残り時間８０分にハンターが増えてしまう。
阻止するにはハンターボックスの横にあるボタンを押してロックをかければいい。
ただし、普通の方法ではボタンに触れることができない。
ここはペーパー世界なのでエリアのどこかにいる『ア・ゲール』という人物に次元ワザを
教えてもらうとボタンを押せるようになる。

「次元ワザか…。やっぱりそこも取り入れてたみたいだな…。」
マリオは当然ながら次元ワザを知っているが…、

「次元ワザ？　何だそれ。」
「次元ワザってどこかで聞いたことがあるような無いような…。」
「ええぃ!!　とにかくア・ゲールとかいう奴を叩き出して（探し出して）やるゾイ!!」
ヨッシーやソニック、デデデ等は次元ワザを知らない。
ちなみに次元ワザについてはハザマタウンで皆もらった広告を見れば分かるはずだ。
一方、とある場所では…、

「フフフフフ…。いいことを思いついたぞ。逃走中のミッションを利用させてもらうぜ…。」
不気味に笑う謎の男…。
この男が後に世間で大騒ぎになるということをこの時、逃走者達はまだ知らなかった…。

「ワリオさん、ミッションはどうします?」
「面倒だから行かねーよ。」
ややこしいせいか、ワリオは全く行く気にもならない。
少しは参加すればいいのにと心の中で呟くスタッフだった…。

「暇だから手がかりが来るまでこれでも読むか…。」
手がかりが来るまでは動かないクッパ。
彼はハンターに警戒しつつ、貰った広告を読み始めた。

「ハァ…。ハァ…。まだ疲れが取れないですね…。とりあえずここの家でちょっと休ま

せて
もらいましょう。」
一方、ヨッシーはラインラインロードのとある家でちょっと休憩を取っているところだ。
しばらくすると、そこに…、
「ん？　ワシの家に入ってきてるのは誰ゲル？」
「あっ、勝手に入り込んですいません!!」
「ひょっとして次元ワザを教えてほしいゲルか？」
「次元ワザって…、貴方がア・ゲールさんですか!?」
「その通り！　ワシはア・ゲール。次元ワザを特別料金１２コインで教えるぞい。」
「はい!!　お願いします!!」
偶然、ア・ゲールに出会ったヨッシー…。
１２コイン払い、見事に次元ワザを習得したのだった。
「本当の所この技は勇者にしか教えられないがマスターハンドに頼まれてのぅ…。とにかく
その技を試してみるといいゲル！」
「えーと…、それ!!」

するとヨッシーの視界では途端に３Ｄの世界に早変わり!!
するとさっきまで無かったドリンクもあった。
「不思議じゃろ？　３Ｄの世界に入り込んでみるとさっきまで見えなかったアイテムが出現した
じゃろ？　そのドリンクはおまけじゃ。持っていくといいゲル。」
「ありがとうございます!!」
こうしてヨッシーはア・ゲールの家を後にし、ハンターボックスの置かれているエリアに向かう
のだった…。

一方、カクカク平原に逃げ込んでいるカービィだが…、
「次元ワザって何？　どこで教えてくれるんだろう…。」
ピリリリリ!!　ピリリリリ!!
ヨッシーからのメールだ…。
「うわっ！　びっくりした～…。」

ヨッシーからのメール

ア・ゲールさんはラインラインロードに入った直後に見える家に住んでいます。
ミッションに参加する人は是非そこへ!!

「なるほど…。ラインラインロードにあるのか…。だったら今すぐに行こう!!」
だが、その近くに…、ハンター。
「急がないと…!!」
頭がミッションのことで一杯なのかカービィはハンターが近づいていることを知らない…。
「…!!」

…見つかった。
「うわっ!!　ハンター!!」
カービィもようやく気付いたが時既に遅し…。

ポン!!　残り87分12秒　カービィ確保　残り逃走者14人
「そんな〜…。一番最初に捕まるなんて…。」
移動は常に、リスクが伴う…。

ピリリリリ!!　ピリリリリ!!

「ん？　メールか…。『確保情報　残り８７分１２秒　カクカク平原にてカービィ確保。残り逃走者は１４人。』え!?　もうカービィ捕まったのか!?」

ラインラインロードに身を移したマリオ…。

開始早々３分近くで確保者が出たせいか、マリオもちょっとヒヤヒヤしている…。

「とにかく急ごう。あと７分でハンターが…。」

マリオもア・ゲールの家へ急ぐ…。

「不気味だなぁ…。」

ｓａｙａが逃げ込んだエリアはアンダーランド。

悪人と裁かれた死者がやってくる場所だ…。

「あれって…、ハンターボックス？　でも今の私じゃ、ロックできないんだよね…。」

ｓａｙａはハンターボックスを見つけたが、次元ワザを習得していない為、当然ながらボタンに

触れることができない。

「急いでラインラインロードに行かないと!!」
　ｓａｙａはモドルドカンを使ってハザマタワーに戻り、大急ぎでラインラインロードへ向かう…。

「遊技場って一体何なのだ？　多分面白そうな所だな。」
　クッパは広告を見ながらア・ゲールの家へ向かっている所…。
　遊技場という言葉を聞き、興味を持ったようだ。
「あれか…。ア・ゲールの家は。」
「ここか…。さぁ、カービィの分まで頑張らないと!!」
　クッパと同時にマリオもア・ゲールの家へ到着。
　自分が活躍すると言わんばかりに早歩きでマリオより先に家の中に入る…。

「ん？　次元ワザを教えてもらいたいゲルか？」
「ガハハハハ!!　その通りだ。時間が無い。さっさと教えろ。」
「口の聞き方が気に食わないが…、いいゲル！　では特別料金１２コイン貰うゲル。あと、
　勇者様（マリオ）も再び教えてほしいなら１２コイン貰うゲル。」

こうしてマリオとクッパも次元ワザを習得し、ハンターボックスをロックしに行く…。

「気を付けていくゲルー!!」
「あの…。私にも次元ワザ教えてください。…１２コインはきちんと払うので!!」
マリオとクッパが出ていくと同時にｓａｙａもア・ゲールの家に到着。
「入ってくるタイミングがある意味良すぎるゲル…。とにかく１２コイン貰うゲル。」
「ありがとうございます!!」
続いてｓａｙａも次元ワザを習得。こうして彼女もアンダーランドへ向かう…。

「…これじゃ、動くことすらできないゾイ…。」
小声で呟くデデデは現在、モノノフ王国にいる。
しかし、ハンターがすぐ近くに居る為、動くことができない…。
「…。」
ハンターもエリアを隈なく捜索している…。
「…。」
しかし、ハンターは通り過ぎた…。デデデも一安心したところで。

「今ゾイ!!」
デデデもハザマドカンを使用。
ハザマタワーに戻され、すぐさまラインラインランドへ向かう…。
「あっ!!　ヨッシーの言っていた家はあれかゾイ?」
デデデはラインラインロードに入り、家を見つける。
すると…、
「陛下、ここにおられましたか。」
「メタナイト!　お前もここに来ていたのかゾイ!?」
「時間があと5分程度しか残っていません。早く次元ワザの習得をした方がよろしいかと。」
「い、言われんでも分かっておる!!」
入った直後、メタナイトと合流したデデデ。
大急ぎでア・ゲールの家へ向かう…。

「ワシは今日で何回次元ワザを教えたゲル?　お客が多すぎるゲル…。」
マスターハンドの依頼で次元ワザを何人も教えているア・ゲールだが、本人はこれが逃走中の

ミッションであることを知らない…。
「ア・ゲールというのはお前かゾイ!?　今すぐ次元…何とかを教えるゾイ!!」
「またかゲル…。きちんと１２コイン払ってもらうゲル。ほれー!!」
デデデとメタナイトも次元ワザを習得。
「一体何人に次元ワザを教えたゲル？　え～と…、１、２、３、４…」

次元ワザを習得したマリオ、ヨッシー、クッパ、デデデ、ｓａｙａ、メタナイト。
残り５分辺りでハンターが放出されてしまうが、果たして間に合うのか!?

第3話　ミッション①―2　迫りくる時間

「OH…。やっと着いたぜ。でも寄り道にいろんなエリアを周ったのはちょっとマズかったか…。」

ミッション終了まであと3分…。そこにソニックがア・ゲールの家に到着。

これは約5分前にさかのぼる…。

ピリリリリ!!　　ピリリリリ!!

「うぉっ!!　びっくりした…。電話か。」

電話が鳴ったのですぐに電話に出たソニック。誰からかと言うと…、

「ソニック、僕達もミッションに行かない?」

「あぁ、別にいいぜ。俺は。」

「じゃ、急いで次元ワザ覚えてミッションに行こう!!」

そして現在に至る…。

「しかし、待ち合わせ場所とか聞いてなかったな…。あとで電話かけるか…。」

「しまったー!!　一緒にミッションやるとき、待ち合わせ場所とか考えてなかったー!!」
待ち合わせ場所を聞いていなかった２人…。
「（ルイージが）来るまでミッションやっておくか…。」
するとソニックはア・ゲールに次元ワザを教えてもらい、ミッションへ向かう。

「どこだ?　どこだ?　ハンターボックスは…。」
モノノフ王国にやってきたマリオ。
ミッション終了まで残り３分も無いせいか、かなり慌てている様子…。
「あー!!　あんな所にあったのか…。」
ハンターボックスを見つけたマリオ。
しかし、その近くに…ハンター。
「よし、急ごう!!」
ハンターに気づかず、ハンターボックスへ走って行ったマリオ。
この後、前代未聞の悲劇になることを知らずに…。

「アンダーランドって完全に地獄ですよね、これ…。」

一方、マリオの相棒ヨッシーはアンダーランドへ。
彼もまたハンターボックスを封印する為に走っている…。
「あっ、ヨッシーさん。ひょっとしてハンターボックス探してますか?」
「はい。」
「じゃ、ここは任せてください。ここの場所知っているのでヨッシーさんは別のエリアに向かってください。」
「分かりました。」
ｓａｙａとヨッシーが合流。
と同時にヨッシーはモドルドカンを使用して別のエリアに向かった…。
「私も急がないと…。」

マリオはハンターボックスを封印する為、走っている最中…、
「…!!」
見つかった…。
「うぉっ!!　ハンター!!　とにかく逃げろー!!」
ようやくマリオもハンターに気づき、逃げ出すが…、

「…うわっ!!」
何と、最悪なことに転んでしまった…。」
ポン!!　残り８２分８秒　マリオ確保　残り逃走者１３人
「うわー…。ミッションをクリアできないまま終わるなんて…。」

スーパースターのマリオもハンターのスピードには敵わなかった…。

ピリリリリ!!　ピリリリリ!!
「うわっ!!　メールか…。びっくりしたよ。え～と…『確保情報　残り８２分　モノノフ王国
にてマリオ確保。残り逃走者は１３人。』…え!?　兄さん捕まったの!?」
「まさかマリオが消えるとは…。もうちょっと奴と勝負したかったのだ…。まぁ、マリオより
生き残ったからいいのだ！　ガハハハハ!!」
ミッション終了まであと２分。

ハンターボックスは未だ封印されておらず、このままでは8体のハンターが逃走者に襲い掛かる…！

第４話　ミッション①―３　終了まであと２分

「とにかく急ごう！　今は次元ワザを習得するのが先だ!!」
マリオ確保という事実を突き付けられたルイージだが、今は彼に対する情けは無用だ…。

「早くミッション行かないとな…。でもハンターがうろうろしてるから動けない…。
（早く消え失せてくれないかな…。）」
ミッション終了まであと２分…。動けない瑞田高光が様子を伺っている…。
「…。」
するとハンターが去って行った。
「よし、今のうちに行くか…。」
今だと考えた高光はこの場を去り、ア・ゲールの家へ向かう…。

「すいません。次元ワザ教えてください。」
「またゲルか…。一体今日で何回目ゲル？」

「そんなことどうでもいいから早く!!」
面倒臭そうに言うア・ゲールだが、高光は早く早くと急いでいる。
「もう、分かったゲル…。」
１２コイン払い、次元ワザを習得した高光は急いでミッションに向かう…。

「あっ、あった!!」
一方、再びアンダーランドへ向かったｓａｙａ…。
そして…、
「えいっ!!」
次元ワザで３Ｄの世界へ入り込み、ボタンを押したｓａｙａ。
これで残るハンターボックスは２つ。だが、そこに…、ハンター。
「きゃっ!!　ハンター!!」
ペラペラではあるが、運悪くハンターと顔合わせしてしまったｓａｙａ…。
だが…、
「あれ?　タッチしてこない…?」
タッチしないことに違和感を持つｓａｙａ…。

ピリリリリ!!　ピリリリリ!!
するとメールが来た。

通達①
次元ワザを使うと２Ｄ世界のハンターには捕まらないが、同じように３Ｄの世界にも同じ数の
ハンターが反映されるので油断は禁物だ。
ちなみに２Ｄ世界にいる時は３Ｄ世界のハンターには捕まらない。

「良かった…。２Ｄの世界のハンターだったんだ…。」
運良く、捕まらなかったｓａｙａ…。
しかし、ゲームはまだ始まったばかり。簡単には逃げきれない…。

「どこだ?　どこだ?　ハンターボックスは…。」
ヨッシーはモノノフ王国のハンターボックスを封印する為、モノノフ王国を周っている…。
「ヨッシーだゾイ!!」

「ヨッシー殿!!」
そこにデデデとメタナイト。
2人と合流し、3人でハンターボックスを探すことに…。するとすぐそこに…、
「あれは、ハンターボックス!!」
「すぐ左にあったゾイ!!」
ハンターボックスを見つけたメタナイト。
すぐさまヨッシーが次元ワザを使いボタンに触れる…。
「これで良しっと…。」
「あっ!! おいしい所持って行かれたゾイ!!」
これで残るハンターボックスはあと1つ…。
残りはストンストン村にあるハンターボックス。それを封印すればミッションクリアとなる。

「それにしても暑いのだ…。早く涼しい所へ行きたいのだ。」
そのストンストン村に身を移していたクッパ。
だが、かなり暑く堪ったものではないようだ…。
「ついでにハンターボックスも見つかるといいのだ…。」

だがこうしている内にミッション終了まであと１５秒を向かえていた…。

「ハンターボックス、あと１つはどこでしょうか…。」

「全くゾイ…。」

ヨッシーはｓａｙａがアンダーランドのハンターボックスを封印しに行ったことを知っている為、

残りハンターボックスはあと１つと断定している…。

ミッション終了まであと…１０!!

９!!

８!!

７!!

６!!

5!!

4!!

3!!

2!!

1!!!

「これだな？　ハンターボックスは…。」

終了直前、ハンターボックスの前に現れたソニックは真っ先に次元ワザを使用し、ボタン

に触れた…。

0!!!　ミッション成功

ピリリリリ!!　ピリリリリ!!
「何だ?　ミッションはどうなったんだ?」
ストンストン村に身を潜めていたスネーク。

ミッション①の結果
ヨッシー、デデデ、メタナイト、ソニック、ｓａｙａの活躍により、ミッションは成功。
ハンターの数はそのまま４体となった。

「やったー!!　成功しました!!」
「成功したゾーイ!!」
「ふぅ…。何とかギリギリ間に合ったみたいだな。」
ミッション成功を喜ぶ逃走者達…。だが、その裏では…、

「フフフフフ…。ようやく俺達『オルタナティブ』の時代が来たようだな…。」
「あぁ…。これで世界は俺たちの物だ。」
「そうだ…。手始めにスーパーペーパーマリオの世界を手中に収めるというのはどうだ

？」

「いいね…。それ。」

『オルタナティブ』と名乗る謎の３人組は手始めにスーパーペーパーマリオの世界を征服しよう

としている…。果たして彼らは一体何者なのか!?

第５話　ミッション②―１　倒れた女性

ピリリリリ!!　ピリリリリ!!

「今度は何なんだ?　全く…。」

カクカク平原エリアにいる総銀。一体メールは何回響くのだろうか…。

ミッション②　～賞金単価を選択せよ～

カクカク平原エリアとストンストン村エリアに賞金単価選択装置が設置された。

▶１秒５００円になるがハンター２体追加

▶１秒１００円になるがハンター１体消去

２つの選択肢の中から１つを選び、残り時間７２分の時点で投票数の多い方に賞金とハンターの数が変化する。

尚、次元ワザを習得していることが条件であり、残り７２分の時点で投票しなかった者は強制失格となる。

「ワッハッハ!!　こりゃチャンスだ!　賞金増やして逃げ切ってやる!!」

ラインラインロードにいるワリオ。彼が何に投票するのかは…明らかだ。
決して本人の前で『ケチ』と言ってはいけないと感じるのは俺だけだろうか…。
「嫌でもミッションに参加させる気か…。まずはラインラインロードに行かないとな…。」
未だ身を低めているスネーク…。
ミッションに参加するには次元ワザを習得するのが条件である。
だが運の悪いことに…、ハンター。
「…。」
彼らは逃走者を見つけ次第、確保へ向かう。
振り切るのは…、容易ではない。
「くそ…。こんな時にハンターか…。こうなったらあそこに…。」
一か八か草むらに身を潜めたスネーク…。
果たしてこのままやり過ごせるか!?
「…。」
何とかやり過ごせたようだ…。
そしてスネークはラインラインロードへ向かう。

「ミッションですか…。早くやらないと強制失格になるみたいですね。」
「全くゾイ…。」
「即ち、嫌でもミッションに参加させる気ってことか…。」
一方、賞金単価選択装置を探しているヨッシーとデデデ、メタナイト。
彼らは一度モドルドカンを使い、ストンストン村にいる。
３人とも次元ワザは習得している為、発見次第、投票することができる。
「前のミッションが面倒臭かった分、今回は楽勝だゾイ!!」
「しかしながら陛下、ハンターは５体。過信は禁物です。」
「い、言ってみただけだゾイ!」

「はぁ…。何か僕、忘れられてるような気がするな…。」
ようやく次元ワザを習得できたルイージ。
これはミッション①終了まであと２分の頃を遡る。
「すいませーん。次元ワザ教えてくださーい!!」
「また客ゲル？　一体何人来るゲルか…。」
「急いでいるんでお願いします。」
「次元ワザ教えるのも楽じゃないゲルよ…。一体今日で何人教えたことか…。」

ルイージは頼み続けるが、ア・ゲールは疲れているせいか、まともには聞き入れてくれない。
「もう!!　次元ワザを教えてくれる装置を置くからその装置から教えてもらうゲル!!」
「ありがとうございます!!」

「…という訳だったんだよな。そんじゃ、急ごう。」
ルイージはモドルドカンでハザマタワーへ戻り、すぐさまストンストン村へ向かう…。

「いいぞ、いいぞ…。そのまま投票してしまえ。そうすれば…。」
一方、モニターで逃走者を監視しているオルタナティブの三人。
一体、賞金単価装置に何を仕組んだのだろうか…。
「そろそろ例の仕掛けを作動させてもいいだろ?　ゴンズ。」
「あぁ、頼んだぜ…。レチュア。」
賞金単価装置も不気味だが更なる仕掛けが作動しようとしている…。

「ハァ…。ハァ…。ここまで来れば大丈夫…。」
ハザマタウンの外れにいるこの女性。
かなり体力を消耗しており、いつ倒れてもおかしくない状態に至っている…。
そしてしばらく経ち、彼女は倒れた。

「あっ、あれか!?　賞金単…何とかは。」
ルイージは少し歩いて賞金単価装置を見つけた。
だが…、
「だけど…、見つけたのが早すぎるせいでどっちに投票するか決めてなかったな…。」
ルイージはしばらく考え込んだ…。
▶逃げ辛くしてまで賞金を増やすべきか…。
▶賞金を減らしてまで逃げやすくするべきか…。
中々決心がつかないルイージ…。だが遂に、

「よし、これだ!!」
勇気を持ってボタンを押した!!

ちなみに誰がどのボタンを押したのかはミッション終了までは明かされない。
「何かホッとした気分だ…。」
するとそこに…、
「よ、よし、見つけたのだ…。」
「ク、クッパ!!?」
クッパも賞金単価装置に到着。
「な、何だよ?　文句でもあるのか!?　ガハハハハ!!」
「クッパもこの装置を探してたの…?」
「正にその通りだ。ワガハイはどっちに投票するかはもう決めてある。」
クッパも投票し、これで2人がミッションをクリア。
だが、その背後にハンター…。
「あっ、ハンターだ。隠れないと…。」
「何ーー!?　ハンターだと!?」
ルイージが小声でクッパに囁くも、それをクッパ自身が大声で叫んだせいで
ハンターに見つかってしまった2人…。
「大声で叫んじゃダメだって!!」
「や、やかましいわ!!」

２人で口喧嘩をしているうちにハンターはもの凄い速さで彼らを追い詰めていく…。

「い、一か八かだ!!」

捕まると感じたルイージは左へ急カーブ。

予想通りルイージは逃げ切り、クッパだけが追われるという事態に…。

「ミドリのヒゲめ…。自分だけ逃げおって…。」

ポン!!　残り７６分５９秒　クッパ確保　残り逃走者

愚痴を履いた直後、クッパは確保されてしまった…。

この先、一体どんなドラマが待ち受けているのか!?